

日本アンダーライティング協会

東京・大阪で講習会を開催

北米とアジアにおけるアンダーライティングテーマに

日本アンダーライティング協会は1月20日に大阪市の大同生命大阪本社で、同24日に東京都のツアー再保険場ともに30人が参加した。テーマは「北米とアジアにおけるアンダーライティング(診査基準、告知項目、査定等)」で、北米については米国、アジアについてはタイが例にとられた。



北米におけるアンダーライティングの講演

本会で第64回教育講習会を開催した。ツアー再保険生保企画部査定チームの柄田直之氏、今田千穂氏が講師となり、大阪会場、東京会場ともに30人が参加した。テーマは「北米とアジアにおけるアンダーライティング(診査基準、告知項目、査定等)」で、北米については米国、アジアについてはタイが例にとられた。診査基準については、米国、タイどちらにおいても健康診断書の利用は一般的ではなく、年齢・保険金額に応じて医師による診査(プラス各種検査結果)やAPS(Attending Physician Statement)からつけ医の証明書や通院記録が必要となる。また、米国では70歳以上の場合、保険金額によっては処方歴の確認、認知機能の検査、運転歴・事故歴の確認等が必要となること特徴的だ。

告知項目については、米国、タイどちらにおいても、APS取得のためにかかりつけ医の有無が項目として設けられており、限定病名の治療歴については期間(過去5年以内等)を限定せずに質問されているケースが多い。また、タイでは家族歴や配偶者のウイルス肝炎等の有無が項目として設けられている。

米国とタイともに高齢化が進んでいるが、特に米国においては、ミレニアル世代の取り込みが課題となっており、証券発行までの間に保険申し込みが取り消されることもあることから、査定時間を短縮するためにAccelerated Underwritingと呼ばれる取り組みを行っている。Accelerated Underwritingとは、自動査定システムによりMIB(生保会社診査情報センターの情報)やRx(処方歴)等のデータを判定させることで査定を簡略化させるものだが、その分、保険料は割高になる。最後に、米国、タイにおけるLGBTの顧客への査定の事例が取り上げられた。

(文責：第一生命保険株式会社契約医務部・竹田紗代)